

2018年10月24日

### ～静岡県内主要産業の四半期見通し調査 (2018年10～12月期)～

## 設備投資関連の業種を中心に、 業界景気は緩やかに回復

#### 現況について

工作機械やエアコンを中心とした民生用電器部品、情報サービスや人材派遣など事業所向けサービスが堅調に推移し、引き続き回復基調にある

#### 今後の見通しについて

消費増税に伴う駆け込み需要が見込まれる住宅が上向くなど、総じて緩やかな回復が続く見通し

なお、業種ごとの10～12月期の業界景気見通しは、主要20業種のうち「住宅」が『やや上昇』で、「観光・レジャー」が『やや下降』、残る18業種が『横ばい』

『好調』が1業種、『順調』が3業種、『普通』が10業種、『低調』が6業種となる見通し

調査項目 業種	業界景気	
	現況 (7～9月)	見通し (10～12月)
製茶	☁ → ☁	☁
食品・飲料	○ → ○	○
家庭紙	○ → ○	○
産業用紙	☁ → ☁	☁
工作機械	☀ → ☀	☀
民生用電器部品	○ → ○	○
自動車部品	○ → ○	○
二輪車部品	☁ → ☁	☁
建設	○ → ○	○
住宅	☁ ↗ ○	○
大型小売店	☁ → ☁	☁
食品スーパー	☁ → ☁	☁
自動車販売	○ → ○	○
家電量販店	○ → ○	○
運輸・倉庫	○ → ○	○
情報サービス	○ → ○	○
外食	○ → ○	○
観光・レジャー	○ ↘ ☁	☁
リース	○ → ○	○
人材派遣	○ → ○	○

担当：主任研究員 岩間 晴美

## 設備投資関連の業種を中心に、業界景気は緩やかに回復

猛暑に見舞われ、台風や地震などの自然災害が相次いだ今夏、エアコンや飲料など季節商品の売行きが好調だった一方、あまりの暑さに外出を控える人も多く、サービス業や観光・レジャーなどで客数が伸び悩んだ。こうした中、県内の産業景気は、工作機械やエアコンを中心とした民生用電器部品、情報サービスや人材派遣など事業所向けサービスが堅調に推移し、引き続き回復基調にある。

今後の見通しについては、生鮮品などの価格高騰により小売業への影響が懸念されるが、上記の業種に加え、消費増税に伴う駆け込み需要が見込まれる住宅が上向くなど、総じて緩やかな回復が続く見通し。

### (1) 業界景気の現況について (2018年7～9月期)

県内産業（主要20業種）の現況（2018年7～9月期）は、『好調』業種が「工作機械」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「情報サービス」「人材派遣」の3業種、『普通』が「食品・飲料」「家庭紙」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「家電量販店」「運輸・倉庫」「外食」「観光・レジャー」「リース」の10業種、『低調』が「製茶」「産業用紙」「二輪車部品」「住宅」「大型小売店」「食品スーパー」の6業種で、『不調』業種はなかった。

前回6月調査との比較では、「民生用電器部品」が『普通』から『順調』、「家電量販店」が『低調』から『普通』にそれぞれ1ランク上昇した。

### (2) 業界景気の見通しについて (2018年10～12月期)

2018年10～12月期の景気見通しは、全20業種のうち、2019年10月に予定される消費増税を受けて駆け込み需要が顕在化するとみられる「住宅」が『低調』から『普通』へ『やや上昇』、被災地復興に向けた誘客支援の動きが県内業界にとってマイナスになるとみられる「観光・レジャー」が『普通』から『低調』へ『やや下降』、残る18業種は『横ばい』の見通しとなった。

『横ばい』18業種のうち、『好調』が続くとみられるのは、内需が好調な「工作機械」の1業種。『順調』のまま『横ばい』が続くのは、都内の再開発工事をを受けて底堅い需要が見込まれる「民生用電器部品」、システム等管理運営受託が堅調な「情報サービス」、年末に向けて多くの業種で需要が高まると見込まれる「人材派遣」の3業種。

『普通』のまま『横ばい』が続くのは、飲料缶類の需要が上向くと予想される「食品・飲料」、新設備を導入したメーカーが増産に向かう「家庭紙」、新型車を中心に堅調な動きが見込まれる「自動車部品」、公共・民間とも前年を上回る「建設」、軽自動車好調な「自動車販売」、4Kテレビの売上に期待がかかる「家電量販店」、輸送用機器や食料品が堅調とみられる「運輸・倉庫」、食材価格の高騰が懸念されるが前年並みの売上水準を維持する「外食」、企業の底堅い設備投資意欲を背景に利用が進む「リース」の9業種。

『低調』のまま『横ばい』が続くのは、贈答需要が低迷する「製茶」、コスト上昇が懸念される「産業用紙」、欧米市場が盛り上がり欠ける「二輪車部品」、他業態との競争が激化する「大型小売店」、農産品などの価格高騰が懸念される「食品スーパー」の5業種。

静岡県内主要産業四半期見通し調査 『現況』と『見通し』推移

年次		2015年	2016年				2017年				2018年		
四半期		Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月(○は調査月)		10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨
業界景気の『現況』	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	順調 ○	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3
	普通 ◐	7	7	7	7	6	8	8	9	8	10	10	10
	低調 ☁	10	10	10	10	11	9	8	8	9	7	7	6
	不調 ☂	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	全業種の平均階級値	2.50	2.50	2.50	2.50	2.45	2.55	2.65	2.75	2.75	2.85	2.85	2.95
	好調：5												
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
業界景気の『見通し』	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	やや上昇 ↗	0	1	0	0	2	0	1	0	2	1	1	1
	横ばい →	20	19	19	20	18	20	19	20	18	18	19	18
	やや下降 ↘	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（9月調査であれば7～9月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（9月調査であれば10～12月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。  
調査時点…2018年9月上旬  
回答企業…県内主要20業種（255社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、20業種の平均値。

2018年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (7～9月)	見通し (10～12月)	生産量 (対比伸び率 前7～9月期)	売上高 (対比伸び率 前7～9月期)	生産量 (伸伸び率 前年同期比)	売上高 (伸伸び率 前年同期比)	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前7～9月期対比)	製品価格の動向 (前7～9月期対比)	受注残 (カ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	均 衡	適 正	→	→	—
食品・飲料	○ → ○	○	↘	↘	↗	↗	○	均 衡	適 正	↗	→	0.5～1.0
家庭紙	○ → ○	○	→	→	↗	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	↗	→	○	均 衡	適 正	→	↗	0.1～1.0
工作機械	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	需要超過	過 小	→	→	1.0～7.5
民生用電器部品	○ → ○	○	↘	↘	↗	↗	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～3.0
自動車部品	○ → ○	○	→	→	→	→	○	均 衡	適 正	↗	→	0.1～3.0
二輪車部品	☁ → ☁	☁	↗	↗	→	→	○	均 衡	適 正	→	→	0.2～1.0
建設	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	均 衡	適 正	↗	→	4.0～11.0
住宅	☁ ↗ ○	○	—	↗	—	↗	○	均 衡	適 正	→	→	1.0～9.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	↗	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	→	—	供給超過	適 正	→	↗	—
自動車販売	○ → ○	○	—	→	—	→	—	均 衡	適 正	→	→	—
家電量販店	○ → ○	○	—	↘	—	↗	—	供給超過	適 正	→	→	—
運輸・倉庫	○ → ○	○	—	↗	—	↗	◎	均 衡	—	↗	→	—
情報サービス	○ → ○	○	—	→	—	→	○	需要超過	—	→	→	—
外食	○ → ○	○	—	→	—	↘	—	均 衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	○ ↘ ☁	☁	—	↘	—	↘	—	供給超過	—	↗	→	—
リース	○ → ○	○	—	→	—	↗	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	↗	—	↗	○	需要超過	—	→	↗	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ○	横ばい →	横ばい (+2～△2%) →	79～70% ◇	均 衡	適 正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ⊙	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

## 主要業種の現況と10～12月期の景況見通し

業種	業界天気	秋冬番茶は、台風による塩害で減産の見込み
製  茶	☁  →  ☁	<p>(現況)・二番茶は、前年比+1割程度の増産となった。ただし、製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った模様。水出し緑茶が下支えし、ドリンクや抹茶アイスなどの売上を伸ばした茶商もあったが、猛暑の影響でリーフ茶の需要は落ち込んだ。</p> <p>(見通し)・秋冬番茶は、台風による塩害の影響で減産の見込み。ただし、価格は堅調に推移し、製茶問屋の売上高は前年並みとなる見通し。ドリンク向けは堅調な需要が見込めるが、今秋は暖かい日が続くとみられ、家庭需要への影響が懸念されるほか、歳暮など贈答需要も低迷が続きそう。</p>

業種	業界天気	魚価の高騰など製造コストの上昇で、収益は悪化する見通し
食 品 ・ 飲 料	○  →  ○	<p>(現況)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年を+3%程度上回った模様。主力のツナ缶生産量は、健康志向などを背景に前年を+5%程度上回ったが、キハダマグロなどの魚価の高騰に伴い、収益は悪化したとみられる。</p> <p>(見通し)・県内の食料缶メーカーの売上高は、前年をやや上回る見通し。ただし、魚価の高騰や資材費などの製造コスト上昇により、収益の悪化が予想される。飲料缶類は、長期予報で高めの気温が予想されていることから需要が上向き、生産量は長雨などの天候不順で低水準だった前年を上回る模様。</p>

業種	業界天気	新設備導入メーカーの増産により、トイレ紙の生産は前年比増
家 庭 紙	○  →  ○	<p>(現況)・家庭紙生産量は、前年並みとなった模様。再生トイレ紙の生産量は前年並み。原料や輸送費などコストが高止まりする中、価格は横ばいで推移している。ティッシュは、生産量・価格とも前年並みで推移した。</p> <p>(見通し)・家庭紙生産量は、前年をやや上回る見通し。再生トイレ紙は前年をやや上回る見込み。新設備を導入したメーカーが冬の需要期を前に増産するとみられる。大手パルプ物の上昇気配を受け、価格は堅調に推移しそう。ティッシュの生産量は前年並みとみられ、価格も安定的に推移する模様。</p>

業種	業界天気	段ボール原紙・白板紙とも、値上げ実現へ
産 業 用 紙	☁  →  ☁	<p>(現況)・産業用紙生産量は前年をやや上回った模様。段ボール原紙の生産量は通販向けや家電向けが堅調で、前年をやや上回った。白板紙の生産量は前年並みで推移した。ただし、古紙の国際価格上昇を受け、原料確保が難しくなり、収益に影響が出た。</p> <p>(見通し)・産業用紙生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙の生産量は、前年をやや上回るとみられる。昨年に続き、1割程度の値上げが見込まれる。白板紙の生産量は前年並みとなる見通し。コスト上昇への対応から、値上げが定着しつつある。</p>

☀ 好調   ○ 順調   ● 普通   ☁ 低調   ☔ 不調   業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	自動化・合理化投資がけん引し、内需が好調
工作機械	☀ → ☀	(現況)・全国および県内の受注額は、前年並みで推移した模様。外需で受注に頭打ち感が出始めているものの、内需は前年実績を+10%以上上回るなど好調を維持し、全体としては過去最高水準を維持している。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年並みで推移する見通し。貿易摩擦が激化している中国市場の変調が懸念されるものの、欧米での需要が底堅く、落込みをカバーする見通し。一方、内需は自動化・合理化への設備投資がけん引し、前年実績を上回る見通し。

業種	業界天気	家庭用エアコンは、新製品投入で前年をやや上回る見通し
民生用電器部品	○ → ○	(現況)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、7月下旬から猛暑日が続いたことで、前年を+10%以上上回り、過去最高水準に達した。冷蔵庫の出荷台数は、底堅い買い替え需要を背景に前年並みで推移した。 (見通し)・県内の家庭用エアコンの出荷台数は、11月に予定されている新製品投入で前年をやや上回る見通し。業務用も、都内の再開工事向けに底堅い需要が見込まれる。冷蔵庫は、少人数世帯向けのコンパクトで高性能なタイプが支持を集め、前年水準を維持するとみられる。

業種	業界天気	登録車向け、軽自動車向けともに前年実績を確保
自動車部品	◐ → ◐	(現況)・全国の自動車生産台数は、前年並みで推移したとみられる。内需は前年を下回ったものの、輸出は欧州・豪州向けが堅調に推移した。県内部品メーカーの生産量は、全体としては前年をやや上回った模様。 (見通し)・全国の自動車生産台数は、おおむね前年水準で推移する見通し。内需は新型車を中心に堅調な動きが見込まれる。輸出はほぼ横ばいで推移するとみられるが、北米の需要鈍化が懸念される。県内部品メーカーの受注量は、登録車向け、軽自動車向けともに、前年実績を確保する見込み。

業種	業界天気	欧米市場が盛り上がり欠け、県内の部品生産量は前年割れ
二輪車部品	☁ → ☁	(現況)・全国の完成車生産台数は原付クラスの伸長が寄与し、前年実績を確保した模様。ただし大型車は欧米で販売が伸びず、完成車メーカーの生産移転作業に伴う一時的な操業停止もあって、県内部品メーカーの生産量は前年を割り込んだ。 (見通し)・全国の完成車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。原付クラスの増勢が続くが、大型車では主力の欧米市場が盛り上がり欠け、人気機種を生産に一服感が生じる見込み。来年発売の新型の生産も年内への寄与は限定的。県内部品メーカーの生産量は前年を割り込むとみられる。

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	公共は前年比微増、民間は物流関連がけん引し前年を上回る
建設	○ → ●	(現況)・県内の公共工事契約額は、前年を下回った模様。大型案件が少なかった国関係等が低調だったが、民間の工事費予定額は前年を上回った模様。西部で延床面積1万㎡超の物流センターが着工するなど、物流関連が堅調に推移した。 (見通し)・県内の公共工事契約額は、低調に推移した前年の水準をやや上回る見通し。東部の高規格道路関連工事や、防災関連工事が進むとみられる。民間の工事費予定額は、前年を上回る見通し。中部では大規模物流センター、東部では県内外メーカーの事務所や工場が相次いで着工する見込み。

業種	業界天気	消費増税前の駆け込み需要が顕在化
住宅	☁ → ●	(現況)・県内の持家新設着工戸数は、前年をやや上回った模様。貸家は、相続税節税ニーズが一段落した前年の水準は確保したとみられる。分譲は、大型マンションが着工した中部が大きく伸びたことを受け、前年を上回った模様。 (見通し)・県内の持家新設着工戸数は、前年を上回る見通し。2019年10月に予定される消費増税を受けて、駆け込み需要が顕在化するとみられる。貸家は、1棟20~30戸規模の案件が数多く着工し、前年水準を確保する見通し。分譲は、中部と東部でマンションの着工が進み、前年を上回るとみられる。

業種	業界天気	百貨店は前年割れ、総合スーパーは前年比微増
大型小売店	☁ → ☁	(現況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや下回った模様。百貨店は、猛暑日が続く来客数が減少、衣料品や宝飾品の販売額が低迷した。総合スーパーは生鮮品の単価上昇で食料品が伸長したが、衣料品や住関連品は振るわなかった。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや割り込んで推移する見通し。百貨店は、年末商戦を控えるが、ネット通販との競合が厳しく、主力の衣料品が前年を下回る見込み。総合スーパーは、生鮮品の価格上昇で飲食料品の販売額が押し上げられ、前年をわずかに上回るとみられる。

業種	業界天気	農産品や乳製品、水産品の価格上昇に懸念
食品スーパー	☁ → ☁	(現況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回った模様。猛暑でキャベツやレタス、キュウリなど夏野菜の単価が前年比2倍近く上昇し、販売額を押し上げた。肉類では国産豚肉の高騰で、安価な輸入品の販売割合が上昇した。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。北海道胆振東部地震による農産品や乳製品の品薄、水産品でもイカやサンマの不漁による価格上昇が見込まれる。売上は維持できるものの、高値の状態が長引けば買い控えが懸念される。

☀ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7~9月期、下段が10~12月期

業種	業界天気	登録車が伸び悩むも、軽が好調で総じて横ばい見通し
自動車販売		<p>(現況)・県内の乗用車販売台数は、前年をやや下回った。登録車は、新たに不適切検査問題などが発覚した影響などにより、前年比▲3%の減少。軽自動車は、新型モデルが好調に推移し、前年を+3%上回った。</p> <p>(見通し)・県内の登録車販売台数は、前年をやや下回って推移する見通し。全国各地の災害を受けて、納車時期の遅れや店舗の営業日数の減少などが影響する見込み。軽自動車は、納車1年待ちのオフロードカーなど人気車種がけん引し、前年を上回るとみられるが、乗用車全体では前年並みの見通し。</p>

業種	業界天気	4Kテレビの本放送開始で、前年をやや上回る見通し
家電量販店		<p>(現況)・県内の家電販売額は、前年並みで推移した模様。薄型テレビの販売額は前年を▲5%程度下回り、レコーダーや調理家電も前年をやや割り込んで推移した。一方、記録的な猛暑で、エアコンや扇風機は前年を大きく上回った。</p> <p>(見通し)・県内の家電販売額は、前年をやや上回る見通し。12月から4Kテレビの本放送開始が予定され、薄型テレビは前年をやや上回る見通し。洗濯機は、高性能な商品への買い替え需要に支えられ、前年水準を維持するとみられる。一方、掃除機は、ロボット型への買い替え需要が一巡し前年を下回りそう。</p>

業種	業界天気	輸送用機器や食料品などを中心に、輸送量はやや増加する見通し
運輸・倉庫		<p>(現況)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器やエアコンなどの季節商品が堅調に推移し、前年水準を+3%程度上回った模様。普通倉庫の入出庫高は、ウエートの高い電気機械や飲料、紙パルプの荷動きが鈍く、前年をやや下回った。</p> <p>(見通し)・県内のトラック輸送量は、輸送用機器や食料品などが堅調に推移するとみられ、前年をやや上回る見通し。ただし、燃料価格は上昇基調が続くとみられ、収益を圧迫すると予想される。倉庫の入出庫高は、年末に向けて食品や電気機械の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる模様。</p>

業種	業界天気	管理運営受託を中心に、受注は堅調
情報サービス		<p>(現況)・全国の売上高は前年をやや上回った模様。主力のソフト開発が前年水準を維持したほか、管理運営はクラウド活用サービスが伸びて、売上が増加した。県内では、官公庁案件が底堅く、製造業や流通、金融などの民間需要も堅調だった。</p> <p>(見通し)・全国の売上高は、前年並みとなる見通し。受注ソフトなどソフト開発は横ばいを見込むが、システム等管理運営受託は、引き続き堅調に推移しそう。受注は堅調だが、SE不足が常態化しており、各社とも営業力の強化や新技術の習得に注力していく意向。</p>

☀ 好調 ○ 順調 ◐ 普通 ◑ 低調 ☔ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

業種	業界天気	食材価格の高騰による採算割れが懸念
外食	●	(現況)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや下回った。前年に大河ドラマ特需があった西部地域は来店客数を維持できず、猛暑による食欲低下、天候不順による外出控え、大規模災害による外食マインド低下なども需要を鈍らせた。
	→ ●	(見通し)・県内の主要外食店の売上高は、前年をやや下回る見通し。前年の大河ドラマ特需は補えず、客数減少は避けられない。猛暑や豪雨、台風、地震などの自然災害により全国の産地が被害を受けたため、食材価格は高騰するが、メニュー価格への転嫁は難しく、採算割れを起こす店舗が増える模様。

業種	業界天気	被災地支援の割引プランで、県内来訪客数は減少
観光・レジャー	●	(現況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った模様。早い梅雨明けはプラスに作用したものの、台風が伊豆半島に直撃したほか、繁忙期の8月に雨の日が多く、直前予約の需要を取り込むことができなかった。
	→ ☁	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年を下回る見通し。被災地の災害復興支援が静岡県にはマイナスとなる模様。西日本13府県を対象にした「ふっこう周遊割」に加えて、地震の被害を受けた北海道でも同様の割引クーポンが発行されるため、県内の宿泊客・日帰り客の減少は避けられそうにない。

業種	業界天気	企業の設備投資意欲は高く、リース利用も進む見通し
リース	●	(現況)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回った模様。製造業を中心に、合理化・省力化に向けた設備投資意欲は高く、リースの利用件数も増加したとみられる。機種別では、工作機械や自動車が堅調に推移した。
	→ ●	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回る見通し。製造業を中心に、企業の設備投資意欲は底堅く、リース利用も進むとみられる。一部の事業者は、公立学校の空調機器設置に関してリース活用を提案しており、自治体との契約案件増加にも期待がかかる。

業種	業界天気	年末に向けて多くの業種で、派遣需要が高まる見通し
人材派遣	○	(現況)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3%程度上回った模様。人手不足を背景に製造や営業などの分野で旺盛な需要が続いた。一方、供給サイドでは、派遣先のニーズに合う人材を思うように確保できず苦慮するケースもみられた。
	→ ○	(見通し)・県内の実働派遣労働者数は、前年を+3%程度上回って推移する見通し。年末に向けて求人を出す企業が増加するとみられ、多くの業種で高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、企業が求めるスキルを持った人材の確保が難しく、マッチングが困難な状況にあり、伸びは限定的となる見通し。

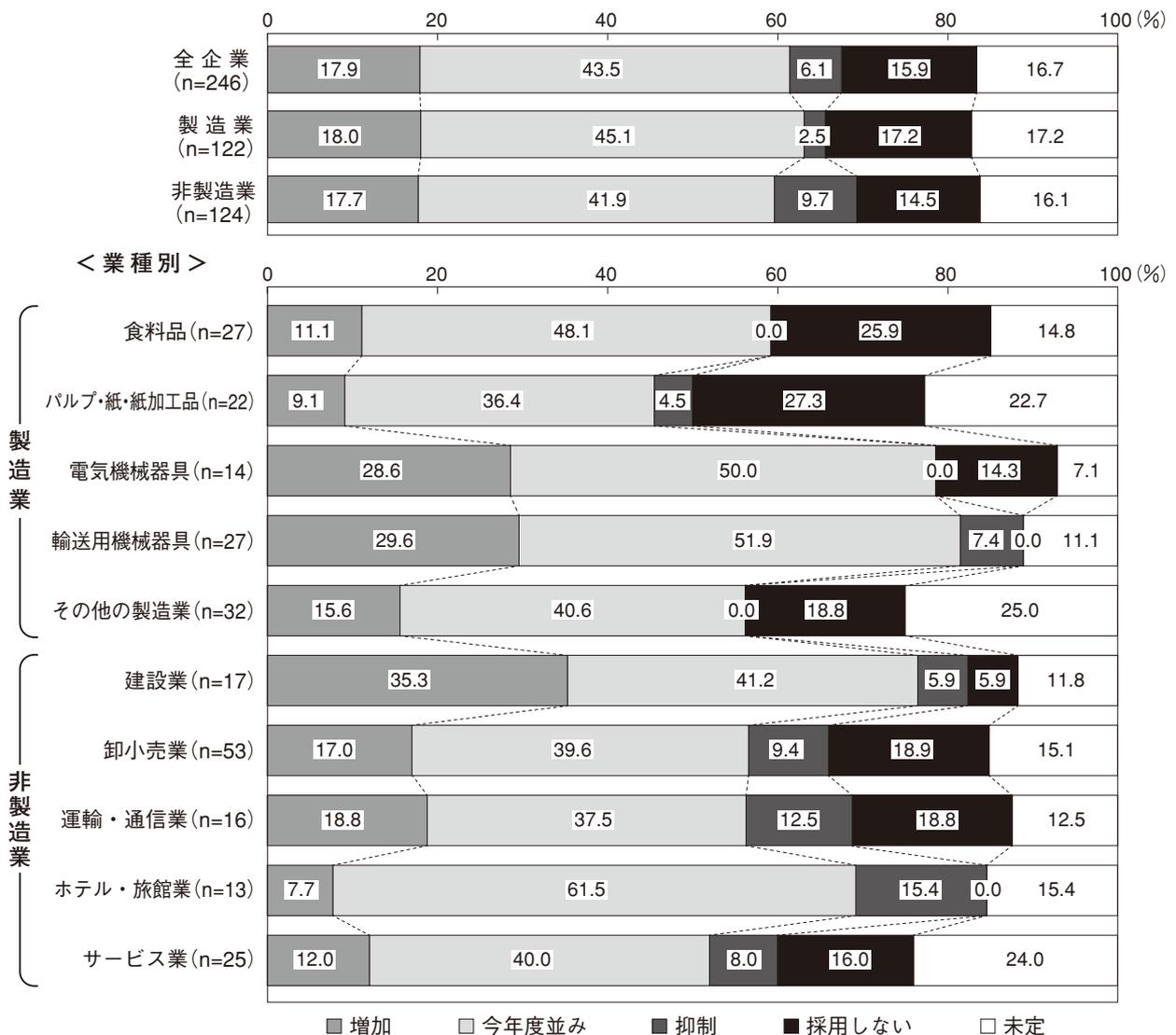
☀ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が7～9月期、下段が10～12月期

## 新卒者の採用「増加」方針は前年並みも、新卒需要は底堅く推移

2019年度の静岡県内企業の新卒者採用方針は、18年度より「増加」とする企業が17.9%と前年度（17.7%）とほぼ同水準となった。一方、「採用しない」は15.9%と前年度（20.1%）より▲4.2ポイント減少し、「増加」と「前年度並み」を合わせると6割を超え、新卒需要は引き続き底堅く推移している。

業種別では、「増加」方針が製造業で18.0%、非製造業で17.7%となった。製造業では「輸送用機械器具」（29.6%）や「電気機械器具」（28.6%）、非製造業では「建設業」（35.3%）や「運輸・通信業」（18.8%）で「増加」方針とする企業の割合が高い。しかし、新卒採用を増加させたい意向があっても、「大企業の採用増加により、中小企業は厳しい状況が続いている」（輸送用機械器具）や「前年と比較して苦戦しており、9月中に2次募集を予定している」（運輸・通信業）との意見も寄せられた。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針



調査要領：調査時点 2018年9月、調査対象企業数622社、回答社数246社、有効回答率39.5%